

アーティストが、芸術活動で生活できるようになる環境を成立
させる要素（アートを産業化するための仕組み）について

【戦略性・方向性】

- ・市民の文化活動を束ね、戦略的方向を立て、全体をマネジメントしてゆく市民主体の活動運営センターの設置（大平）
- ・長期的ビジョンに立って市長直轄の横断的な戦略的文化芸術推進組織の設置（大平）

【協働・交流】

- ・アーティスト、大学研究者と企業家がアートの創造性を企業活動に生かしていくかについて協議。意見交換し合うセミナー形式の交流プロジェクト（大平）
- ・アーティストの利益を守る芸術家協同組合的ネットワーク化（大平）
- ・多彩な芸術イベントの複合化・融合化を図り、来訪者のニーズを満たす環境作りを行うとともに、オンシーズン（GWなど）にイベントを集中させる（中島）
- ・文化芸術をもっと身近に感じるため、地域コミュニティに支えられた小規模分散型イベントを模索すべき（中島）
- ・企業からの資金援助だけでなく、施設の提供等により企業と芸術家、観客との距離を縮め、文化芸術に対する理解を深める（中島）
- ・学校施設や公民館を文化芸術活動に提供し、その代償としてアウトリーチ活動を行うなど、市民と芸術家の活動環境を近くし、文化芸術が身近に感じられるようにする（中津）
- ・トリエンナーレなど、観光も絡めた札幌を中心とした道内規模のツーリング型国際芸術展の開催（斉藤）

【情報発信】

- ・札幌で今どのようなアートシーンが行われているかが分かる、文化芸術情報のオンラインと新たな冊子による発信（大平）
- ・市立図書館におけるアート情報提供の強化（大平）
- ・アーティストの経済的な自立を達成するにあたっては、観客の確保・増大が必要である。お金をかけない広報も必要だが、時には様々な媒体を駆使した大規模なキャンペーンの仕掛けが必要（早川）

- ・札幌が文化・芸術の街であると市民が認識できるイメージ作りのため、観光文化情報ステーションの移設・機能拡大のほか、報道機関等と連携した定期的な情報発信に関する検証が必要（早川）。
- ・イベントという観光資源や教育資源を創造していくため、イベント情報を集積し、可視化する（中島）。
- ・作品を買い上げるほか、継続的な調査や北海道の芸術家等のアーカイブの整備、著作権の管理を行う（中津）。
- ・札幌市内で多くの芸術活動が行われている事実や、そのレベルの高さに対する興味を引き出す仕掛けづくり（プロデュース能力とマネジメント力）が必要（阿部）。

【教育】

- ・小学生、中学生、高校生を対象としたアート教育プロジェクト（大平）。
- ・教育機関への外部講師として芸術家や留学生を積極的に導入し、教育の充実と芸術家の支援の両方を実現（中島）。
- ・市立大学デザイン学部・研究科への留学生の授業料無償化（中津）。
- ・ファンドレイズの手法など、芸術家に対する教育を実施（中津）。
- ・大学院レベルのアートマネジメント専科など、育成機関を創設する（佐々木）。
- ・観客を創造するとともに、芸術の力が社会問題を解決するに大きな役割を果たし得るものである認識のもと、芸術学校を作る（斉藤）。

【人材の集積】

- ・芸術家への住居等の低廉な提供、芸術家の認定、顕彰事業の増などにより、北海道の環境の良さをアピールし、道内外、国外からアーティストを呼び込む（中津）。
- ・音楽、美術、舞台芸術、パフォーマンス系の産業化に向け、それぞれのジャンルのプロが札幌に根付くための取り組み（蔵）。

【行政側】

- ・官民共同による基金づくり（大平）。
- ・明確な基準に基づいた公募による助成システムの拡大（大平）。
- ・芸術家のアウトリーチ活動を促進するため、市民側の要望を受け付ける窓口を設置する（中津）。
- ・芸術家や団体の情報公開を促し、出資者が活動を評価するための情報を参照できる仕組みを作るとともに、出資に足る活動の公的な認定を行う（中津）。

- ・アートに関するブランドコンセプトを開発し、また、活動に対する適正な評価を行うため、アーティストを支えるプロ組織（プロデューサー、マーケッター、広報担当者、資金調達担当者等で構成）を創設（佐々木）。
- ・文化事業に対するオンブズマンを設置する（新堀）。
- ・パブリックアートや美術館のあり方を検討し、市民に受け入れられているか調査し、事業や学校教育にフィードバックするとともに、身近な環境で芸術作品に触れる機会（通勤や買い物など）を増やすなど、公共の福祉の範囲内で芸術作品の需要人口を増やす（新堀）。
- ・行政側に文化芸術を産業として起業・育成する意識が乏しいことから、キュレーターのような職員を見出し、大事に育てるとともに、文化産業推進本部のような全庁組織が必要（蔵）。
- ・産業政策のように、補助金、低利貸付、大規模な試験研究機関などの総合的な振興策が必要（蔵）。
- ・先行する札幌の芸術のトップランナーを生むため、ファイターズや札幌交響楽団のようなクオリティの高い「我が街の劇団」を持つための先行投資を行う（斉藤）。

【アーティスト側】

- ・助成を得るにあたっての自身の作品の社会的価値の明示（大平）。
- ・アートに関するブランドを維持するための主体として、地域の芸術文化活動に一定の役割を担う「アクター組織」を創設する（佐々木）。